

信州須坂町並みの会文書目録と目録作成について(追記)

1 本文書は昭和 61 (1986) 年 11 月に設立された、「信州須坂町並みの会」の活動を伝える資料群である。

2 「信州須坂町並みの会」は、市民の手による町並みづくりと生活の活性化を掲げ、生糸が生んだ須坂の古い町並み（伝統的建造物群）の保存活動と修景運動を展開した。

会の設立以来、「町並みウォークラリー」・「町並み景観賞」の設置、県内外の専門家、学識者を招いて開いた講演会・町並み保存先進地への視察・町並みガイドの養成、小中学生に対する郷土教育などを重ね、平成 5 年には活動拠点の「町並み案内処」の訪問者が 4,586 人、同年 5 月に行われた「町並みフェスト」には延べ 25,000 人が参加する成果を上げるに至った。

この間、平成元 (1989) 年に立て続けに刊行された『信州須坂の町並み』(文・青木廣安、絵・丸山武彦) と日本ナショナルトラストによる『須坂の歴史的町並み調査報告書』は、市民の「町並み」に対する意識を大きく変えることになった。また文化庁による伝統的建造物調査に基づく提言もあって、行政をまきこんだ大きな文化運動になった。

3 本文書は活動拠点であった「須坂町並み案内処」に保管されていたものであるが、須坂市中町の事務所を閉鎖するにあたり、青木廣安氏によって須坂市誌編さん室（現須坂市文書館）に移され、保管されていたものである。

なお、分散保管されていた資料が目録作成後に物置から発見されたため、目録の追記という形をとった。

4 本文書は、主に昭和 61 年～平成 20 年までの資料である。

「信州須坂町並み通信」(No.1～No.242)、総会資料、全国町並みゼミ関係資料、会設立 10 周年記念の「東山魁夷画伯詩碑建立」関係資料、行政との建物保存をめぐる文書類などが豊富にそろっており、信州須坂町並みの会の多岐にわたる活動内容を詳細に伝えている。

また、それらにかかわる写真類も豊富で、町並みフェストの様子を伝える写真類は、貴重な資料である。

なかでも平成 6 年に須坂市で開催された「第 17 回全国町並みゼミ須坂大会」に関する資料は、文書類の外に写真・カセットテープ・ビデオテープなど少なくとも 43 点以上が収集・保管されており、貴重な資料となっている。

さらに追記分をみると、平成元年 5 月分から同 13 年 4 月分までの資料が保管されており、スライドも計 279 点が保管されている。

5 これらの資料を「信州須坂町並みの会文書目録」として作成した。

『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「083」（83 番目）に位置づけ、「083－1－1」～「083－17－9」まで整理ラベルを貼付した。

追記分は、「083－18－1」から始まり「083－18－28」までとした。資料総点数は総計 862 点（内追記分 108 点）である。

6 史料目録作成に当たっては、すでに青木廣安氏によって整理・分類してあった「封」や「括り」を尊重しつつ、それをできる限り時系列に配列することを原則とした。

また、資料活用の便を考慮して、次のようにした。

(1) 史料名は、原則として資料中に記載された表題を記載し、() 内に内容説明を記載した。

〔例〕 平成 19 年度信州須坂町町並みの会総会次第（平成 18 年度事業報告・平成 18 年度決算報告・平成 19 年度事業計画・平成 19 年度予算書）

また無表題の資料は、その内容だけを() 内に記載した。

〔例〕（会員各位 市の中心地区高層マンション計画について）

(2) 散逸する恐れのある写真類は、便宜上封筒入りなどにし保管した。

7 資料の形態については、以下のように略記した。

紙（一紙）、冊（書籍・冊子類、写真アルバム、ファイル）、封（封筒）、
函（写真ネガファイリング用容器）、綴（ジョイントを含む）など

8 本史料目録は、須坂市文書館専門員 田子修一が作成した。

2020 年 12 月 28 日

追記分については、須坂市文書館専門員 大塚尚三が担当した。

2021 年 9 月 17 日

（追記） 史料番号 083－19～33 については岩本憲治氏寄贈。

目録作成は、須坂市文書館館長 中澤公明が担当した。

2023 年 1 月

須坂市文書館